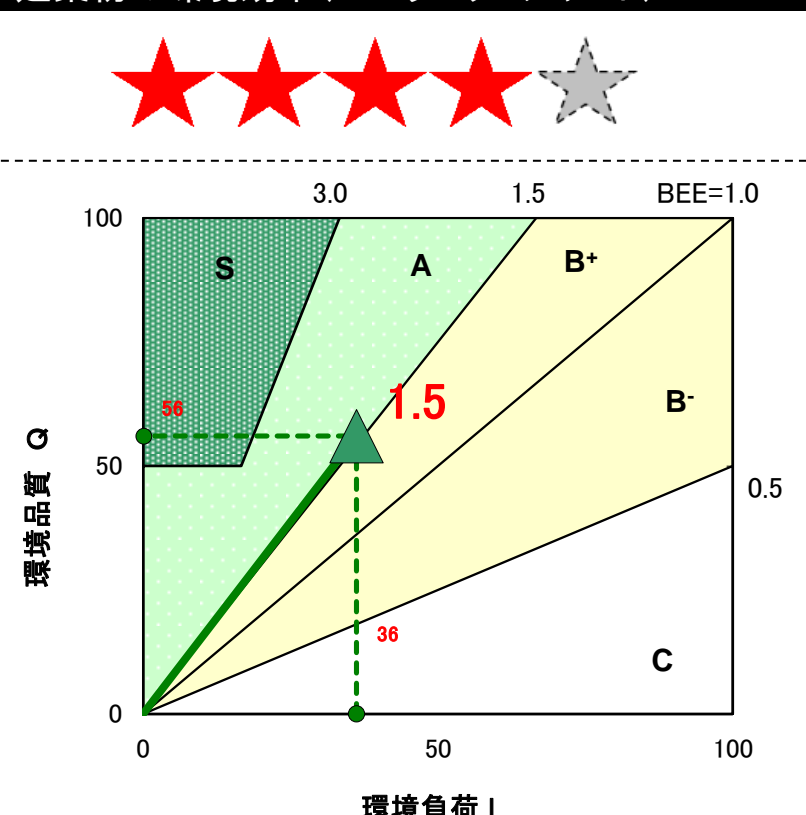


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	南阿蘇村役場新庁舎新築工事	階数	地上2F地下1階		
建設地	阿蘇郡南阿蘇村大字河陽字正傳寺	構造	RC造		
用途地域	区域外、指定なし	平均居住人員	150 人		
気候区分	5地域	年間使用時間	4,380 時間/年		
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年7月17日		
敷地面積	25,279 m ²	作成者	吉永 拓郎		
建築面積	2,231 m ²	確認日	2015年7月21日		
延床面積	4,152 m ²	確認者	伊東 正太郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



★★★★★

BEE = 1.5

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

82%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価






評価点

89

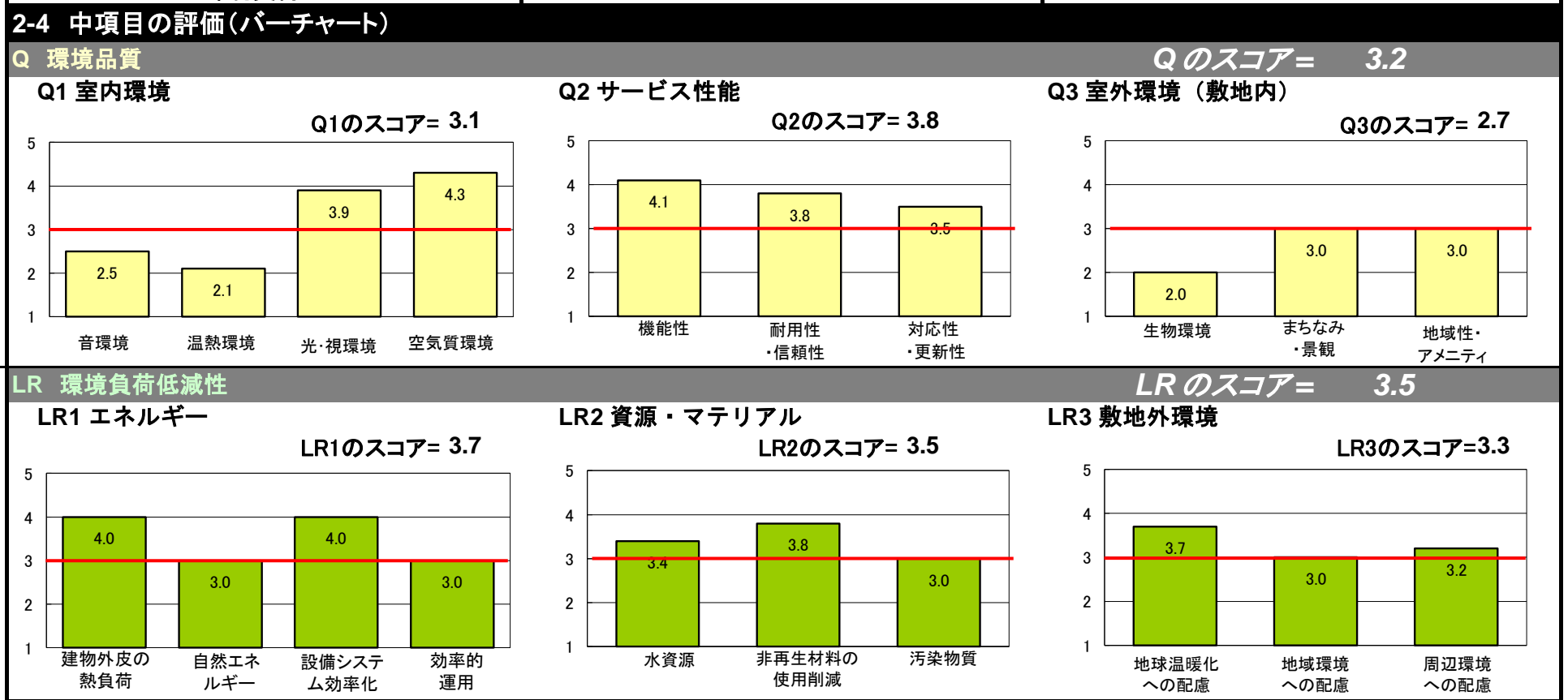
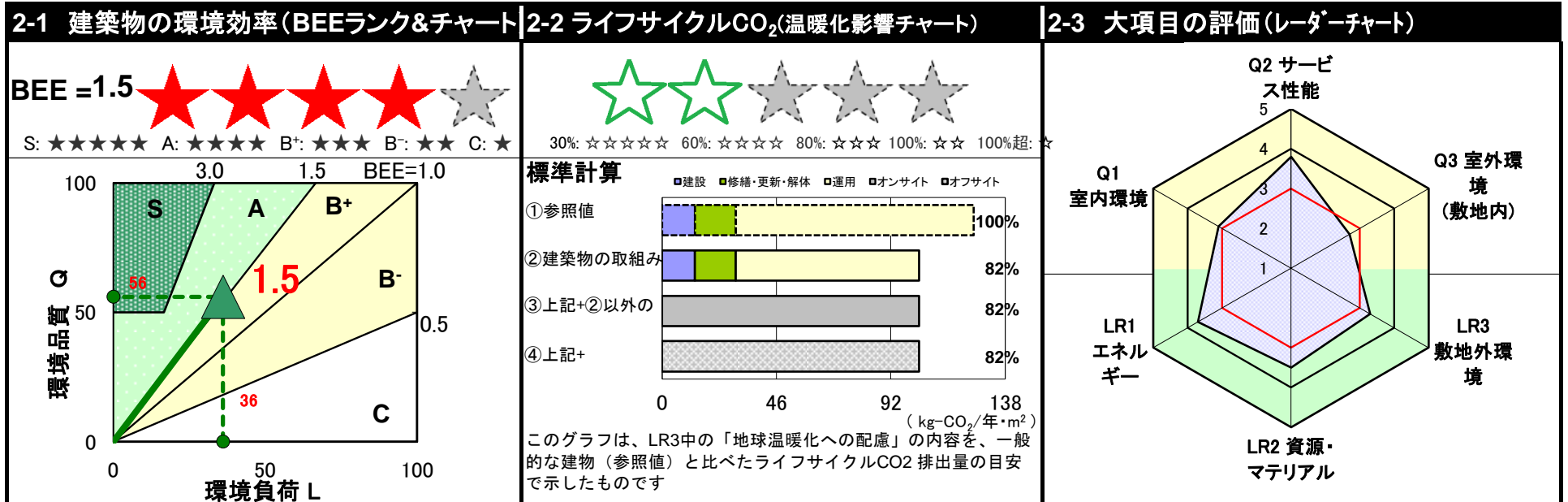
重点事項	評価点	熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	91.2	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>☆☆☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>☆☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>☆☆</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>☆</td> </tr> </tbody> </table>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上	☆☆☆☆☆	80点以上100点未満	☆☆☆☆	60点以上80点未満	☆☆☆	40点以上60点未満	☆☆	40点未満	☆
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上	☆☆☆☆☆													
80点以上100点未満	☆☆☆☆													
60点以上80点未満	☆☆☆													
40点以上60点未満	☆☆													
40点未満	☆													
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	90.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	92.2													

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	南阿蘇村役場新庁舎新築工事	階数	地上2F地下1階
建設地	阿蘇郡南阿蘇村大字河陽字正傳寺	構造	RC造
用途地域	区域外、指定なし	平均居住人員	150 人
気候区分	5地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年7月17日
敷地面積	25,279 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	2,231 m ²	確認日	2015年7月21日
延床面積	4,152 m ²	確認者	伊東 正太郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
南阿蘇村役場新庁舎新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40		-			3.1
1 音環境		2.5	0.15	-	-			2.5
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		1.8	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		2.1	0.35	-	-			2.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 外皮性能	窓システムSC:0.82、U:3.27	4.0	0.25	-	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-			3.9
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-			
1 昼光率		3.0	0.60	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
1 昼光制御	ブラインド・庇	4.0	1.00	-	-			
3.3 照度	500~1000lx	4.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御	デスク作業単位での照明制御	5.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-			4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆採用、化学物質の濃度測定	5.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.3	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	-	-			
2 自然換気性能	0.053(1/30以上)	4.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.8
1 機能性		4.1	0.40	-	-			4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー建築物移動等円滑化誘導基準項目を満たす	5.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井高(執務室等):3.0m	5.0	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース	1階休憩室 25㎡/1,036.23㎡×100=2.41%	4.0	0.33	-	-			
3 内装計画	内観パースにより照明と内装計画の一体化	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	②防汚性の高い床材(ビニールシート)	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	①控室(1階休憩室)	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.8	0.30	-	-			3.8
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-			
1 耐震性	建築基準法の25%増	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル(30年以上)	5.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(硬質塩ビライニング鋼管)	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	・節水型機器(グリーン購入適合品)	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	・発電機・無停電電源設備・浸水の危険なし	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	・光ケーブル・浸水の危険なし(地上設置)・地域防災無線・無停電装置	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高(基準階1階):4.7m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	基準階1階比率:0.11	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース計画	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	・県産材の使用(木工事)	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		外部に面する部分断熱材設置	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.77 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		・自動水栓・節水型便器(グリーン購入適合品)	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラシヤン、ビニル床シート、木毛セメント板	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・壁、天井、軽鉄下地(分別可能、内装材と設備錯綜しない)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・自転車置場の確保、駐車(職員・来庁舎用)スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策がドライン項目の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

本村の目指す「安心して・楽しく・豊かに暮らせるむら」の基本理念を踏まえた上で、むらづくりの拠点として本村の活性化及び住民サービスの向上に寄与する村民に親しまれる魅力的で質の高い施設とする。

Q1 室内環境

柱の無い大空間やコア部分を集約することで多様化する業務や組織的变化に柔軟に対応できるフレキシビリティで可変性に富んだ空間構成としている。建物外周には庇やバルコニーを設けることで外壁面への直射日光を抑制し夏場の熱負荷低減を図っている。

Q2 サービス性能

執務スペースは柱の無い大空間とし1階ホールを囲むように配置することで、各窓口が見渡せる開放的で視認性の高い空間としている。またエントランス付近には来庁者の目的に応じた案内が可能な総合受付を設けることで、ソフト面でも対応が可能な計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

建物は敷地の段差を利用した配置とすることで敷地全体を有効かつ一体的に利用できるように計画している。構内に自生していた樹木の一部を外構の植栽として移植することで樹木保全に配慮した。

LR1 エネルギー

将来的な太陽光発電設備の設置を考慮し南側屋根については設置荷重を見込んだ構造計算としている。照明設備にはLEDを積極的に採用し環境負荷低減に配慮した。

LR2 資源・マテリアル

節水コマや省水型機器（節水型便器）の積極的な採用により水資源の保全に配慮した。再生砕石や再生骨材等のリサイクル材を積極的に採用する。

LR3 敷地外環境

建設地は南阿蘇景観形成地域と阿蘇くじゅう国立公園普通地域に該当することから、建物高さを抑え勾配屋根とすることで地域の景観に配慮した外観とした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 南阿蘇村役場新庁舎新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		89
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.2	0.40	36.48
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				90	0.20	18.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	5.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				92.2	0.20	18.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数